

社会を明るくする運動

法務省が主唱する「社会を明るくする運動」。市内の小中高校生を対象に犯罪や非行のない地域社会づくりをテーマに作文を募集しました。各部門の最優秀作文を紹介します。

高校生の部最優秀作文

ありがとうの一言

菊池女子高等学校3年 迫 明郁さん



私は人付き合いが上手ではない。仲良くなっても、ちょっとしたことがきっかけで揉めてしまう。仲直りしても、また。同じことの繰り返しだ。何度もそのことで悩んで、学校に行くのが苦痛に思えるときがあった。だが今は違う。学校に行くのが楽しみなのだ。

なぜ、気持ちが変わったのか。それは、私の通っている学校の校長先生の言葉である。私が入学してからこの言葉を何回聞いただろう。幸せを呼ぶ四つの約束「挨拶・笑顔・返事・敬語」。この言葉を聞いて私は、「あたり前のことではないか」と思った。でもそのあたり前が私自身を変えてくれた。

挨拶することでコミュニケーションがとれる。毎日笑顔でいることで友達が話しかけてくれる。返事することで意思疎通ができる。敬語を使うことで、信頼関係を築くことができる。それに加えて、校長先生は、「何かしてもらったら、ありがとう。相

手を傷つけたと思ったらごめんね。ありがとうとごめんねは、何回言っても損する言葉ではありません。ありがとうと言われて不快に思う人はいません。」と言って下さった。私はその日から毎日「ありがとうを言う」と決意した。

たった「ありがとう」の一言で少しずつ友達との関わりかたが分かってきた。「ごめんね」と言うのはすごく勇気がある。私は注意しただけなのに友達が離れたことがある。私は「なんで」と理由が分からなくて、先生に相談した。

その先生は「あなたは注意しただけだと思うけど、その友達にとって、なんでこんなに強く言われるのかと思ったんじゃない。」と言われた。確かに、私は言い方がきついと何度も言われたことがあった。

だからその時、私は申し訳なく思った。友達に「言い方きつかった、ごめんね」と勇気を振り絞って謝った。友達は、「ううん。私もごめんね。」

と言ってくれたので嬉しかった。私がかつて来るとは沢山の先生、友達、家族、クラブチームのコーチに支えられ、助けられた。「ありがとう」の言葉しか頭に浮かばない。

人間関係でうまくいかない、そう思ったら「ありがとう」と言ってみたらどうかな。きっと良いことがあるよ。

ありがとう。



社会を明るくする運動

つながり～活動通信～ vol.3

「社会を明るくする運動」では犯罪や非行のない地域を目指し、一人一人が考え、参加するきっかけをつくることを目的に活動しています。

問い合わせ先

社会を明るくする運動菊池市推進委員会
☎0968(25)7232(菊池市教育委員会生涯学習課内)
【協力】菊池地区保護司会菊池分会広報部



ミニ集会 昨年7月10日、社会を明るくする運動の構成団体である菊池地区保護司会菊池分会と合同で、市役所においてミニ集会を開催し、啓発車で市内を巡回しました。

作文募集 運動の理解と認識を広げることを目的として、市内の小中高生から、犯罪や非行のない地域社会づくりや更生について考えたことなどをテーマに募集。27作品の応募があり、最優秀3作品を決定しました。県のコンテストでは2作品が入賞しました。

▼市作文最優秀賞【小学生の部】宮本千春さん(泗水東小6年)【中学生の部】本田ゆりさん(七城中3年)【高校生の部】迫明郁さん(菊池女子高3年) ▼県作文コンテスト【熊本県推進委員会委員長(県知事)表彰】宮本千春さん(泗水東小6年)【熊本保護観察所長賞表彰】西岡優雅さん(菊池小6年)

のぼり旗の設置 各区の協力で7月の強調月間に設置。市役所や市内中学校では懸垂幕や横断幕を設置して、啓発活動に取り組みました。

協力金 協力金は令和3年12月末時点で98万3900円となり、各種事業に使わせていただきました。



昨年11月に行われた啓発用品贈呈式。①から、保護司会の清水昭榮さん、安武功心さん、旭志小学校の長島文史校長(社明理事)、保護司会の森隆博会長(社明副会長)、原保奈美さん

コロナ禍のため、社会を明るくする運動の主な取り組みとして例年実施していた集会と街頭啓発が、今年も実施できませんでした。このような状況の中、運動のことを少しでも知ってもらおうと、市内の小中学生全員に、タブレットにも使えるタッチペンを贈ることになりました。

使ってくれた子どもたちからは「使いやすい」「社会を明るくする運動のことを初めて知りました」という感想を聞くことができました。

一緒に配布したチラシをご家族と一緒に読んでいただき、この運動のことを知ってもらえたらと思います。そして、更生保護の輪が、少しでも広がっていったらうれしいです。

広報部会 安武功心

昨年の主な取り組み

小中学生へ啓発用品を贈呈

薬物乱用防止

社会を明るくする運動では、薬物乱用防止を進めることも重要な取り組みの一つです。昨年10月2日には「令和3年度菊池地区薬物乱用防止指導員協議会」の総会および研修会が開催。令和2年度はコロナ禍で多くの活動が中止になりましたが、地道な活動が大切ということから、小中高生に向けた薬物乱用防止教室が行われるなど、各団体からの活動報告がありました。

研修では「薬物乱用の現状について」と題し、菊池警察署生活安全課の猿渡悠司さんに講演いただきました。昔はシンナーが主流だったが現在は大麻が主流になり、大麻クッキーや大麻チョコレートなど多様化。気軽に口にできるため、興味本位やその場の雰囲気流されて安易に手を染めていることや、SNS上では「野菜」(大麻のこと)や「アイス」(覚醒剤)などの隠語を使って薬物のやり取りが行われていること、大麻を自ら栽培し販売する事案も増えているとの話を聞きました。

若者が自らの人生を破壊させないよう、身近なところから「薬物」を根絶させていかなければならないと思いを新たにしました。

犯罪予防部会 井上悦子